

3/8金-5/6回

黄金とミイラが伝える 古代アンデス文明展

会場／1階 展示室A

一般・大学生／1,500(1,300)円 高校生／1,000(700)円 小中学生／600円

※()内は前売りおよび20名以上の団体料金

※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者1名は無料（以下の企画展も同様）

南米大陸の太平洋岸に展開したアンデス文明は、地上絵のナスカ、巨石文明のティワナクなど、数々の個性的な文化を生み出してきた。本展では、アンデスに人類が到達した先史時代から16世紀のスペインによる征服まで、約15,000年にわたって花開いた多彩な文化を、遺物や黄金製品、ミイラなどを含む約200点の貴重な資料で紹介する。

《象嵌のマスク》モチーフ文化 紀元200年頃から750-800年頃
ペルー文化省・国立博物館《カラサヤで出土した金の儀式用装身具》ティワナク文化
・紀元500-1000年頃 ペルー文化省・ミイラ研究所、
チリバヤ博物館

5/18金-6/30回

竹工芸名品展 ニューヨークのアビー・コレクション メトロポリタン美術館所蔵

会場／3階 展示室B

一般／1,000(800)円 大学・高校生／700(500)円

生野祥雲斎《七宝文唐竹網代編盛籠》1947年頃
The Abbey Collection, "Promised Gift of Diane and Arthur Abbey to the Metropolitan Museum of Art."
Images © The Metropolitan Museum of Art.

世界に冠たる美の殿堂、メトロボリタン美術館。全米きっての美術コレクターであるアビー夫妻が収集してきた、76点の竹工芸の名品が揃う。明治期の伝統的な花籠から現代の彫刻の作品まで、竹の造形の多様な表現と展開を紹介する。人間国宝6人を含む国内の代表的作家45人、大分県関係は7作家10点。ニューヨークを魅了したアビー・コレクション日本初公開！

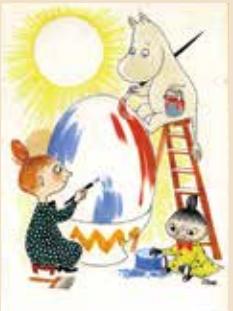
6/29土-9/1回

ムーミン展 THE ART AND THE STORY

会場／1階 展示室A

一般／1,400(1,200)円 大学・高校生／1,000(800)円 小中学生／700(500)円

2019年は日本とフィンランドの外交関係樹立100周年、翌年はムーミン生誕75周年にあたる。この記念すべき年に開催される本展覧会では、各国で出版されたムーミンの小説や絵本の貴重な原画やスケッチ類を幅広く紹介とともに、画家としての評価も高い作者のトーベ・ヤンソン(1914～2001)の資料も展示し、世界中で今なお愛され続けるムーミンの魅力とその背景に迫る。

トーベ・ヤンソン『ムーミン谷の彗星』1946年 インク・紙 ムーミン美術館
© Moomin Characters™トーベ・ヤンソン『イースターカード原画』
1940年頃 グッシュ、インク・紙
ムーミンキャラクターズ社

名探偵コナン 科学捜査展 ～真実への推理～

会場／1階 展示室A

一般・大学生／1,400(1,200)円

中高生／1,000(800)円

4歳～小学生／600(400)円



本展は、名探偵コナンの世界観をベースに、科学捜査の手法を追体験しながら事件解決までのプロセスを楽しめる「体験型」の展覧会。「探偵手帳」を手に、証拠を採取する「現場検証エリア」、新たな情報を収集する「聞き込みエリア」、証拠を科学的に鑑定する「ラボエリア」を巡り、事件の真相を解明しよう！

9/20金-10/27回

江戸浮世絵の黄金時代 The Ukiyo-e 歌川派

-豊春から国芳、広重まで

会場／3階 展示室B

一般／800(600)円 大学・高校生／500(300)円

江戸の風俗を写した浮世絵の多彩な魅力を、歌川派を軸に概観する展覧会。開祖の歌川豊春の豊後白杵出身説を踏まえながら、遠近法を取り入れた「浮絵」や肉筆美人画など、歌川派の革新的な表現技法に迫るとともに、豊春の薰陶を受けた豊国、豊広、広重や国芳、そしてライバルの北斎にいたるまで、幅広い浮世絵師たちの個性的な画風を紹介する。



歌川豊春《観梅図》江戸時代 大分県立美術館

歌川広重《六十余州名所図会 豊後崎》
江戸時代 大分県立美術館

12/26木-2020 1/24金

岡本太郎展

会場／1階 展示室A

一般／800(600)円 大学・高校生／500(300)円

1970年の大阪万博のシンボル《太陽の塔》で一躍脚光を浴びた岡本太郎。2025年の万博開催に向けて、今までその芸術に注目が集まっている。本展では、岡本太郎の代表的な作風の絵画や彫刻、《太陽の塔》の模型や資料の他、繩文土器との出会いを機に全国各地を取材し文化風土を捉えた写真作品も多数展示する。記録を超えた高い芸術性を持つ岡本太郎の写真作品の中には、新たにプリントされた未発表の繩文土器の作品も含まれる予定。制作、文筆、撮影といったマルチな活動から、革命的なビジョンを鮮やかに開陳させていったアーティストの実像に迫る。

岡本太郎のポートレイト
写真提供：川崎市岡本太郎美術館

太陽の塔

岡本太郎 1956年 撮影
(富山県出土)

2020 3/6金-4/19回

建国300年 ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展

会場／3階 展示室B 一般／1,200(1,000)円 大学・高校生／800(600)円

リヒテンシュタイン侯爵家は、500年以上にわたってヨーロッパ美術の名品を収集してきた。その数は3万点におよび、英国王室に次ぐ世界最大級の個人コレクションとして世界的な名声を博している。本展覧会では、北方ルネサンス、バロック、ロココ時代の絵画約60点と、ヨーロッパの王族や貴族の趣味が色濃く反映された陶磁器の名品などを多数展示し、優雅な宮廷文化を紹介する。

ルーカス・クラーナハ（父）
《聖パリバラ》
ペーテル・ハウル・ルーベンス
《ペルセウスとアンドロメダ》1622年以降
© LIECHTENSTEIN, The Princely Collections, Vaduz-Viennaペーテル・ハウル・ルーベンス
《ペルセウスとアンドロメダ》1622年以降
© LIECHTENSTEIN, The Princely Collections, Vaduz-Vienna小さな取っ手、蓋付容器
金具：イグナツ・ヨーゼフ・ヴュルト、
磁器：有田焼

記載内容には変更が生じる可能性があります。予めご了承ください。